

技術士包装物流会関西支部 福喜多俊夫

<中国 EV 情報 81>では 2017 年 5 月に入手した中国政府諸部門やマスコミからの新エネルギー車、EV 情報を記載します。

1. 中国新エネ市場、日本企業が注目

在上海日本国総領事館経済部の責任者は 2 日、「日本自動車メーカーは先進的な環境保護技術を持つ。中国国内でのビジネスチャンスの拡大に伴い、中国の自動車市場と共に発展することに期待している」と述べた。

在上海日本国総領事に就任する前、片山和之氏は在デトロイト日本国総領事に就任しており、自動車産業を深く理解している。先ほど閉幕した第 17 回上海国際モーターショーで、片山氏は日本メーカーの展示ブースを訪れ、中国市場での事業展開を奨励した。データによると、中国の 2016 年の自動車生産台数は前年比 14.5% 増の 2811 万 9000 台、販売台数は 13.7% 増の 2802 万 8000 台で、いずれも過去最高・世界一を記録した。

在上海日本国総領事館経済部の責任者は「世界最大規模の中国自動車市場は、なおも急成長中だ。今後の経済発展、現在の人口と自動車保有台数を考えると、中国自動車産業にはまだ発展の余地が残されている。特に日本メーカーは EV、PHV などの新エネ車の先進的な環境保護技術を持つため、特殊な成長の潜在力を秘めている」と話した。

(中国網 5 月 4 日)

2. テスラスーパー充電スタンドが北京で稼働開始

北京華貿センターにあるテスラスーパー充電スタンドがこのほど、正式に稼働開始となった。これはテスラのアジア最大のスーパー充電スタンドでもある。同スタンドの地図によると、施設内には 20 基の地上型スーパー充電スポットがある。駐車料金は 1 時間 5 元(約 82 円)。すべてのテスラ車オーナーを対象に、クイック充電サービスを提供する。北京青年報が伝えた。

テスラは 2017 年までに中国で 380 基のスーパー充電ポールを新設する。これは過去 2 年内に新設された数を上回る。テスラによると、世界ではすでに同社のスーパー充電ポールが 5400 基以上設置されており、年末までに、この量を倍にする予定だ。同社はさらに、中国事業を拡大しつつあり、中国地区におけるスーパー充電スポットの数は、年内に 850 基に達する。これには大西南地区、北京・天津・河北、長江デルタ、珠江デルタが含まれる。(人民網 5 月 17 日)

3. VW、中国で提携 3 社目 政府と蜜月 EV も特別待遇 800 億円投じ新工場

中国の自動車業界で異例の提携が認められた。現地メーカーの安徽江淮汽車 (J A C)

は23日、独フォルクスワーゲン（VW）と電気自動車（EV）を共同生産する計画が当局の正式な許可を受けたと発表した。VWにとって中国メーカーとの提携は3社目。2社までとする規制を逸脱する提携が決まった背景には、蜜月関係にある中国政府とVWの思惑がEVでも一致したことがある。JACはEV関連で有力な国有メーカーだが、VWと提携できれば絶大な強みを持つことになる。VWも、JACと組めば中国勢が得意な安価のEV生産が期待でき、シェア拡大に得策と考えたのだ。そして何より、中国政府が後ろ盾の提携案に乗りさえすれば「（政府による環境規制の強化で）急拡大が見込まれる中国のEV市場でもVWは優位な地位を確保できると踏んだのだろう」と自動車業界関係者の多くは見ている。（日経5月24日）

以上